

久留米市地場企業景況調査レポート(平成18年7月～9月期調査分)

< 調査目的 >

久留米市内地場企業の景況及び経営動向を把握し、今後の経営改善普及事業に資するとともに、これらの情報の集計結果を事業所へ提供し、経営の参考にしていただくために調査する。

< 調査対象 >

当所会員事業所を対象とし、建設業・製造業・卸売業・小売業・サービス業それぞれ120社ずつ、計600社を任意抽出して実施。

< 調査要領 >

四半期ごとに調査用紙を郵送し、前年同月比や来期の予測について回答を求める。調査の集計は日商中小企業景況調査の集計方法に基づいた景気判断指数(DI値)で行う。

< DI値とは >

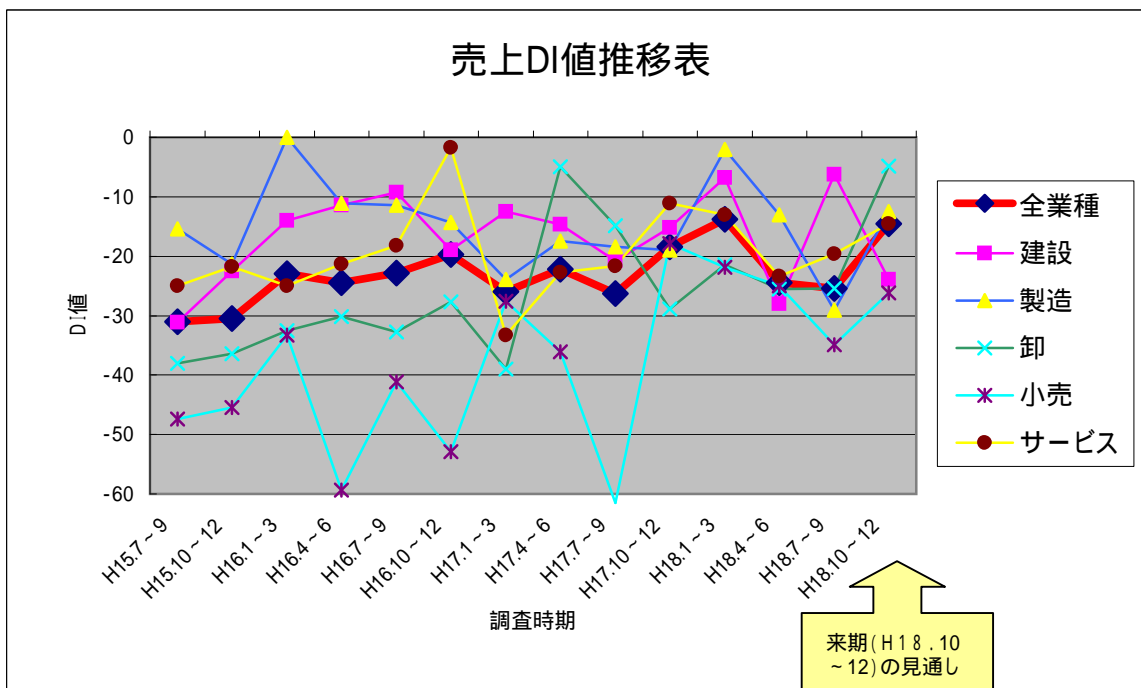
DI(ディーアイ。Diffusion Index:景気動向指数の略)値は、売上・採算・業況などの各項目についての、ヒアリング対象の判断の状況を表す数値。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答(「増加」や「好転」など)の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答(「減少」や「悪化」など)が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$

< 平成18年7月～9月期調査分回収結果 >

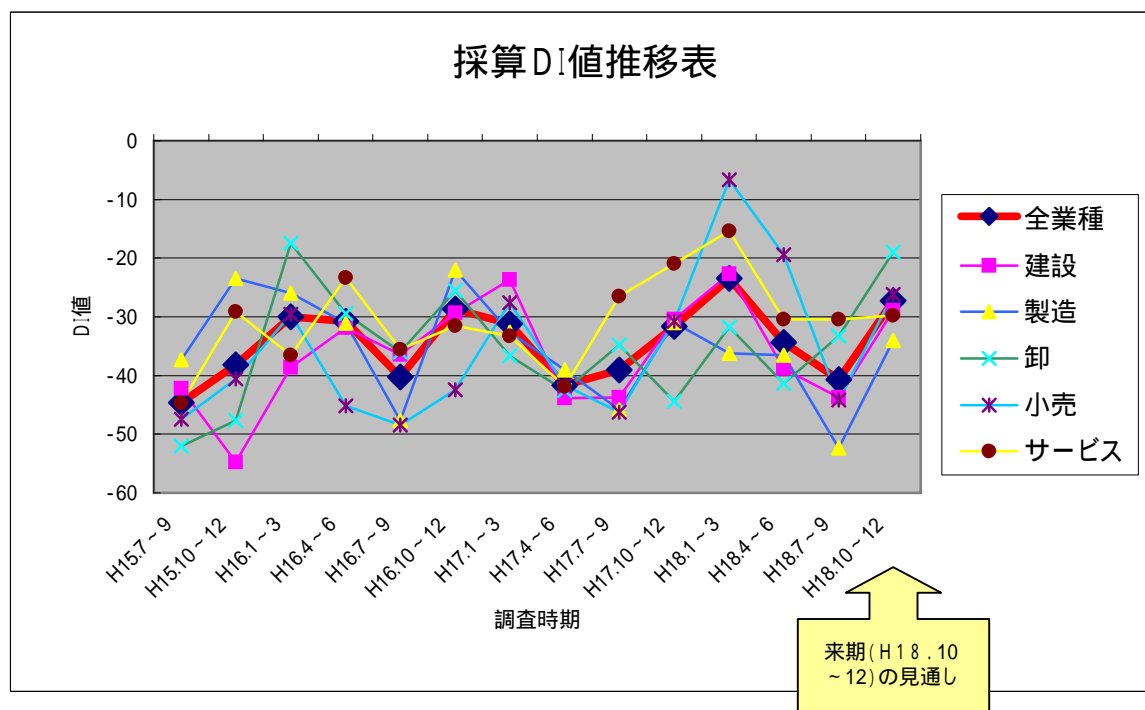
業種	対象事業所数	回答数	回答率
全業種	600	268	44.7%
建設業	120	48	40.0%
製造業	120	56	46.7%
卸売業	120	63	52.5%
小売業	120	44	36.7%
サービス業	120	57	47.5%

売上DI値推移表



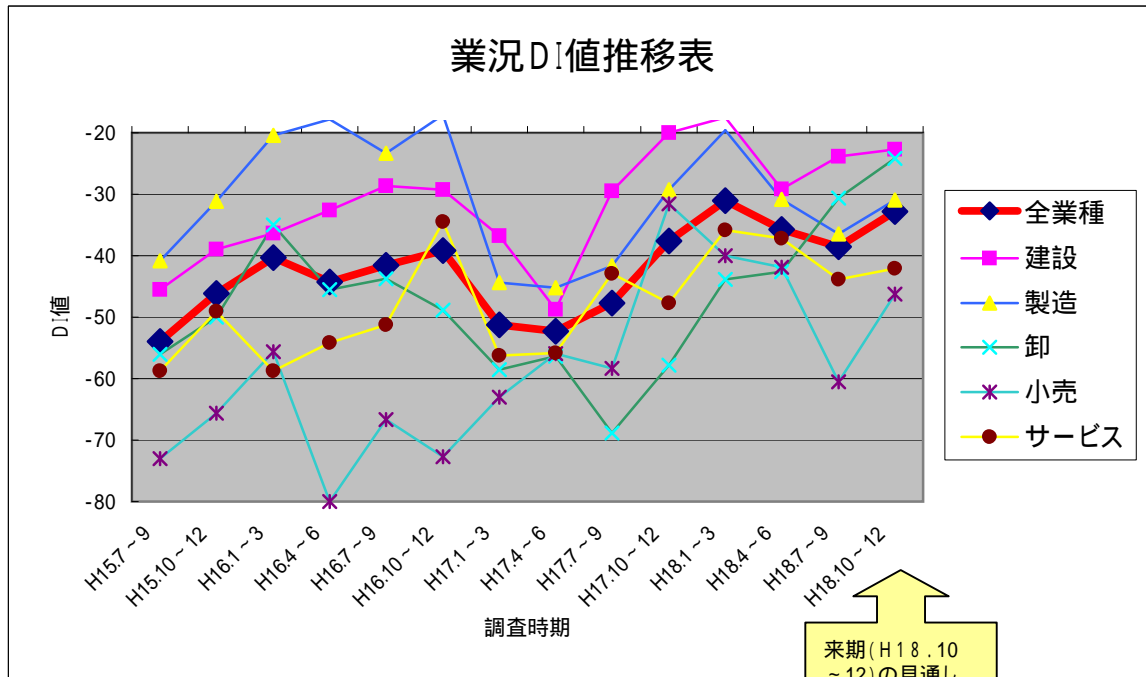
今期(H18.7~9)の久留米市地場企業景況調査で売上面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「増加した」と回答した企業は59社(前期比9社増)、「減少した」と回答した企業は126社(前期比20社増)、「横ばいである」と答えた企業は79社(前期比6社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で拡大して 25.4となり、前期比で0.9ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 6.3(前期比21.7P改善)、製造業 29.1(前期比16.1P悪化)、卸売業 25.4(前期比0.1P改善)、小売業 34.9(前期比9.9P悪化)、サービス業 19.6(前期比3.8P改善)となった。来期(H18.10~12)の見通しでは全業種DI値は 14.5と、10.9ポイント改善する見込み。

採算DI値推移表



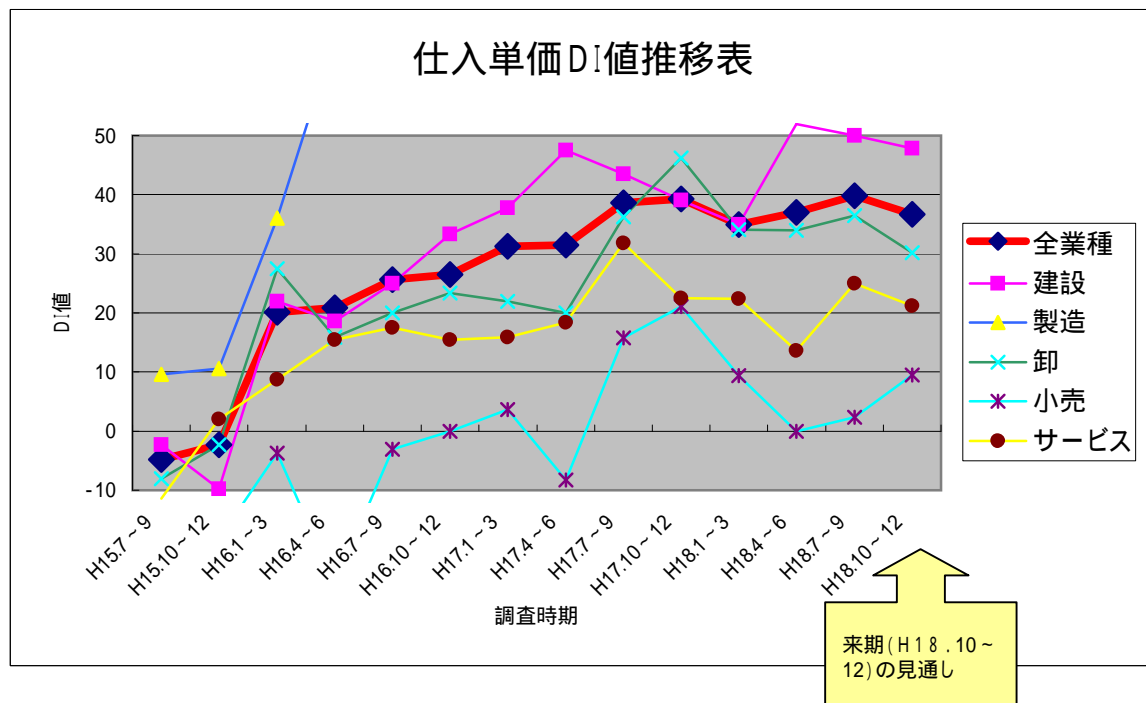
今期(H18.7~9)の久留米市地場企業景況調査で採算面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は29社(前期比5社増)、「悪化した」と回答した企業は140社(前期比39社増)、「横ばいである」と答えた企業は104社(前期比5社増)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で拡大して 40.7となり、前期比で6.3ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 43.8(前期比5.0P悪化)、製造業 52.4(前期比15.9P悪化)、卸売業 33.3(前期比8.0P改善)、小売業 44.2(前期比24.8P悪化)、サービス業 30.4(前期比横ばい)となった。来期(H18.10~12)の見通しでは全業種DI値は 27.3と、13.4ポイント改善する見込み。

業況DI値推移表



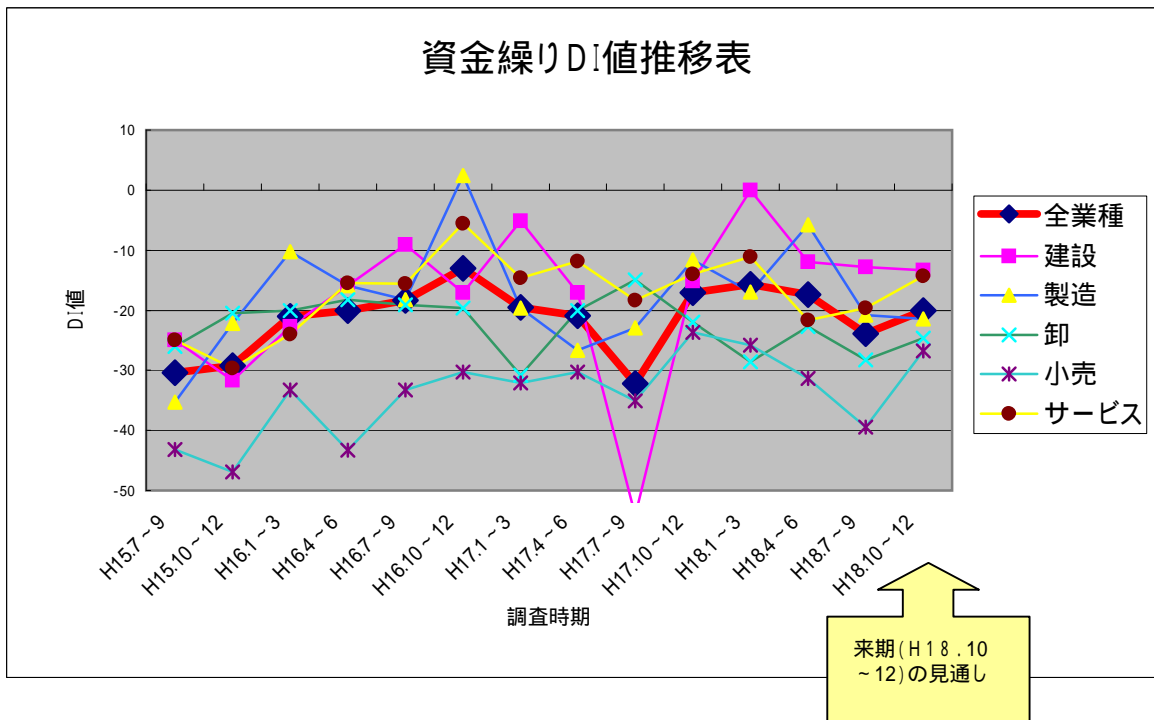
今期(H18.7~9)の久留米市地場企業景況調査で業況面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は25社(前期比12社増)、「悪化した」と回答した企業は125社(前期比33社増)、「横ばいである」と答えた企業は110社(前期比6社減)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で拡大して 38.5となり、前期比で2.8ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 23.9(前期比5.3P改善)、製造業 36.5(前期比5.7P悪化)、卸売業 30.6(前期比12P改善)、小売業 60.5(前期比18.6P悪化)、サービス業 43.9(前期比6.7P悪化)となった。来期(H18.10~12)の見通しでは全業種DI値は 32.8と、5.7ポイント改善する見込み。

仕入単価DI値推移表



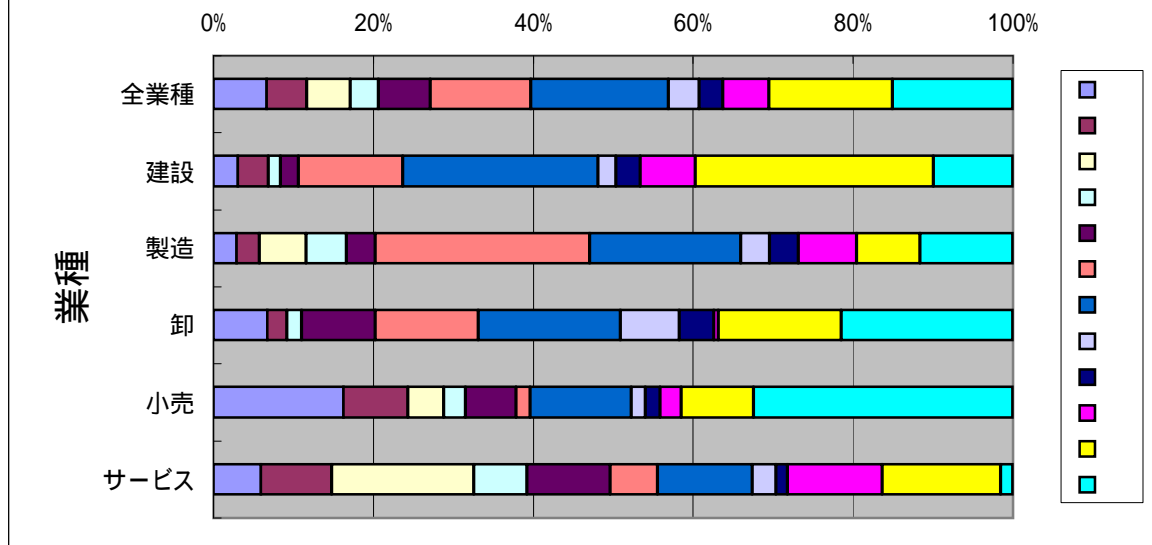
今期(H18.7~9)の久留米市地場企業景況調査で仕入単価面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「上昇した」と回答した企業は127社(前期比29社増)、「低下した」と回答した企業は23社(前期比9社増)、「横ばいである」と答えた企業は111社(前期比4社減)であった。DI値を見ると、2期連続で拡大して39.8となり、前期比で2.8ポイント拡大した。業種別のDI値では、建設業 50.0(前期比2.0P減)、製造業 78.2(前期比11.5P増)、卸売業 36.5(前期比2.5P増)、小売業 2.3(前期比2.3P増)、サービス業 25.0(前期比11.4P増)となった。来期(H18.10~12)の見通しでは全業種DI値は36.7と、3.1ポイント縮小する見込み。

資金繰りDI値推移表



今期(H18.7~9)の久留米市地場企業景況調査で資金繰り面での景気判断指数(DI値)は、全業種合計で「好転した」と回答した企業は19社(前期比6社増)、「悪化した」と回答した企業は81社(前期比29社増)、「横ばいである」と答えた企業は159社(前期比横ばい)であった。DI値を見ると、マイナス幅は2期連続で悪化して 27.9となり、前期比で6.5ポイント悪化した。業種別のDI値では、建設業 12.8(前期比0.8P悪化)、製造業 20.8(前期比15.0P改善)、卸売業 28.3(前期比5.6P悪化)、小売業 39.5(前期比8.2P悪化)、サービス業 19.6(前期比2.1P改善)となった。来期(H18.10~12)の見通しでは全業種DI値は 20.1と、3.8ポイント改善する見込み。

経営上の問題点(複数回答可)



大企業の進出による競争の激化 同業者の進出 消費者ニーズへの対応 人件費の増加 人件費以外の経費の増加 仕入単価の上昇 販売価格の低下 金利負担の増加 事業資金の借入難 従業員の確保難 需要の停滞 その他

今期(H18.7~9)の経営上の悩みとしては、「仕入単価の上昇(12.5%)」「販売価格の低下(17.3%)」「需要の停滞(15.5%)」を指摘する声が多く寄せられている。特に、建設業での「官公需要の停滞(29.8%)」、製造業の「原材料仕入単価の上昇(26.8%)」、卸売業の「販売単価の低下(17.8%)」、小売業の「大企業の進出による競争の激化(16.2%)」、サービス業の「利用者ニーズの変化への対応(17.8%)」に意見が集中した。

<事業所から寄せられたコメント>

- 「引合いが少し活発になってきたが、実績には結びついていない」(塗装工事業)
- 「民間工事は特に請負単価が低く、採算が取れずに赤字続き」(一般土木建築工事業)
- 「資材の高騰のため安心して受注できない」(一般土木建築工事業)
- 「景気の回復と言われるが、中小企業の景気は回復の実感がない」(官工事業)
- 「重油等の燃料代の高騰による影響が様々なところから出てきている」(一般産業用機械製造業)
- 「金利上昇、請負単価下降による収支悪化の中、増税されると企業の体力は著しく低下する」(その他の化学工業製造業)
- 「原材料価格の上昇で採算の悪化が著しい」(セメント・同製品製造業)
- 「個人事業所からの受注がほとんど無い状態」(水産食料品製造業)
- 「同業者間の競争の激化」(建築材料卸売)
- 「前年同期に比べ売上は増加し、引き合いも好転。来期も売上は増加する見込み」(建築材料卸売)
- 「従業員の教育等レベルの向上が当面の課題」(再生資源卸売)
- 「食品業界は全体的に需要が停滞し、販売単価の値上げは困難な状況が続いている」(食料・飲料卸売)
- 「大型店の進出やスーパー、コンビニの出店で売上確保が困難」(酒小売)
- 「消費税増税の実施時期はいつ頃か不安」(各種食料品小売)
- 「売掛金の回収まで立替払が多くて大変」(金物・荒物小売)
- 「若年層の新規顧客の確保が困難」(書籍・文房具小売)
- 「商店街への来街者が著しく減少している」(婦人・子供服小売)
- 「請負単価の下落により収益が悪化」(ビル管理・清掃業)
- 「利用客の減少と、原材料費の上昇により経営が圧迫されている」(クリーニング業)
- 「倒産企業が増えリスクが増大している」(その他サービス業)
- 「需要の停滞による売上の減少、利益率の低下」(その他物品賃貸業)
- 「違法駐車取締りで利用客が増加する見込みが、逆に都心部への車の流入が減っている状態」(駐車場業)